

ICT 教育活用 News

Vol.4 2015 年 1 月発行

iPad/BeeDance

事例紹介

経済学部：岡嶋 裕史先生
(現：情報科学センター所長)
科目名：ゼミナール
履修者数： 13 名



【授業までの道のり】

- Step1 アクティブラーニングの授業を検討
- Step2 情報科学センター運用課に相談、プライベート講習受講
- Step3 問題作成に 30 分程度ですぐに授業で活用

1. BeeDance 導入の目的を教えてください。

情報科学センターの所長になり、BeeDance を知りました。OliveClass も BeeDance も今まで授業で活用していませんでしたが、この機会に使ってみようと思いました。BeeDance であれば簡単に、しかも結果を即時に反映させた授業が展開できると考えました。デスクトップ PC より機動性の高いタブレットである利点も大きいです。経済学部ではアクティブラーニングを積極的に推進していますが、その一環としてゼミでプロジェクト型の学習を行っています。



このタブレットを使えば、チーム入替もしやすいですし、最近の学生はスマートフォンなど個人端末に慣れている点でも円滑に導入できると考えました。



2. どのように授業で活用されましたか。

学生に iPad を配布し、クリッカーのように理解度や意見をきくことに活用しました。またイメージボードという機能があるのですが、プロジェクトのテーマの一つである「萌え」について活用したチームもありました。イメージボードでは画像を表示することもでき、こちらに追記やフリーハンドで書き込みもできます。これはなかなかおもしろい取り組みだったと思います。

授業では横浜市や金沢区とのコラボレーションの形で、学生が企画発案を行うような取り組みもしていますが、各グループの発表では OliveClass を活用するなど、OliveClass、BeeDance それぞれの特性を活かした授業を展開しました。OliveClass は皆で共有できる場を提供し、BeeDance は即時性を活かしました。



3. 導入されたてよかった点をおきかせください。

やはり、持って歩けるなど「フリーアクセスが可能」という点が一番ですね。アクティブラーニングを進めるにあたって良質のツールです。学生も楽しんでやっている印象を受けました。繰り返すと飽きも見られるので、メリハリを付けて使いたいと思います。

4. 今後 BeeDance を活用して実施してみたいことはありますか。

いつでも、どこでもという教育の場の提供のため、これらのツールを使っていきたいと思います。2015年度は BeeDance じゃないとだめという新しい使い方を確立していきたいです。学生と共に柔軟な活用を考えていきます。

貴重なお時間をありがとうございます。今後も BeeDance を活用した授業のサポートをさせていただきますので、よろしくお願いします。

BeeDance の授業シーン別利用機能

レスポンス



選択式・記述式の小テストが行えます。回答結果を瞬時に集計し、プロジェクタ・電子黒板に投影することができます。

イメージボード



教員から出題された問題を手書きで回答することができます。

テキストボード



画像・動画・音声に対して記述で回答が行えます。

資料配布



予め登録をしておいたファイルの共有が行えます。

何かご不明な点がございましたら、情報科学センターまで、お問い合わせ下さい。セミナー等も参加しておりますので、資料もご確認頂けます。

お問い合わせ先

関東学院大学 情報科学センター運用課

外線：045-786-7021 内線：2283

Mail: iscedu@kanto-gakuin.ac.jp